

4. 巡礼地創生委員会の開催

- (1) 時期：2015年 8月20日（木） 1回
- (2) 場所：仙台市 有限監査法人トーマツ会議室
- (3) 対象者：委員4名 赤坂憲雄氏（学習院大学教授、福島県立博物館館長）、あんべ光俊氏（シンガーソングライター）、宮原育子氏（宮城大学教授委員長、結城登美雄氏（民俗研究家）
- (4) 内容：
 - 東北お遍路巡礼地創生委員会の開催：外部委員4名 赤坂憲雄氏（学習院大学教授、福島県立博物館館長）、あんべ光俊氏（シンガーソングライター）、宮原育子氏（宮城大学教授委員長、結城登美雄氏（民俗研究家）を外部委員として開催した。

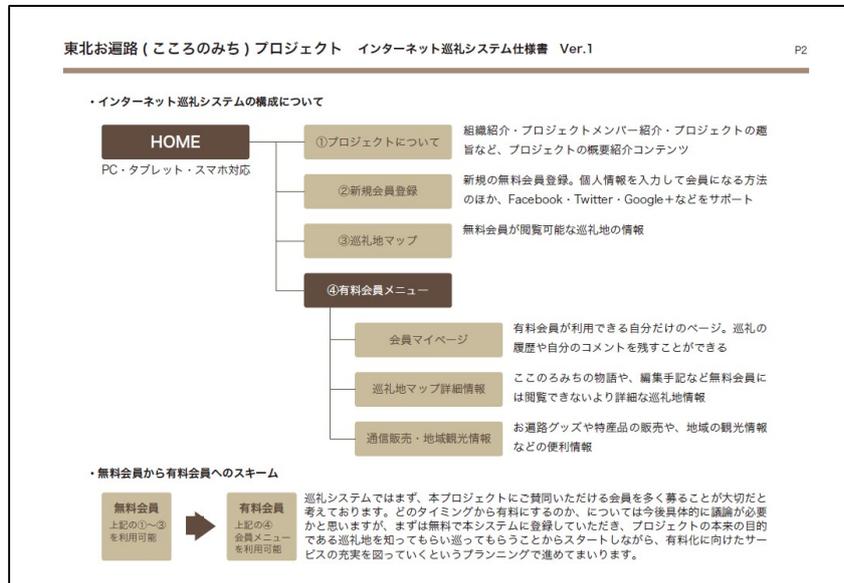
▼巡礼地創生委員会の様子



5. 東北お遍路情報システムの開発と実証

- (1) 時期：2015年8月～9月
- (2) 場所：青森県、岩手県、宮城県、福島県
- (3) 対象者：参加者 8月29日（土）23名、9月25日（金）42名 計65名、9月末時点でのシステム利用者18名
- (4) 内容：
 - 東北お遍路情報の受発信システムの構築と社会実験。巡礼者が巡礼地を巡りやすくする仕組みづくりを東北海遍路体験ツアーにおいて実証実験を行い、ツアーでの意見を基に修正を加え、巡礼地情報システム「こころのみちるべ」として開発した。

▼巡礼地情報システム検討案



・インターネット巡礼システムの流れ

③有料会員の機能(こころのみちの物語閲覧)



③有料会員の機能(スマートフォンの活用)



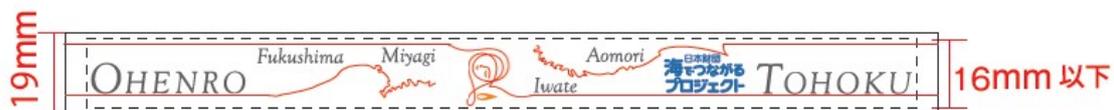
有料会員機能のポイント

- ・PC・タブレット・スマホの3デバイスから利用可能です。
- ・無料会員では閲覧できない「こころのみちの物語」を見ることができます。
- ・スマホのGPS機能を利用することにより、近くの巡礼地を検索できます。
- ・巡礼を終えると、マイページから巡礼スタンプを押すことができ、訪れた巡礼地に対しての自分のコメントを残すことができます。

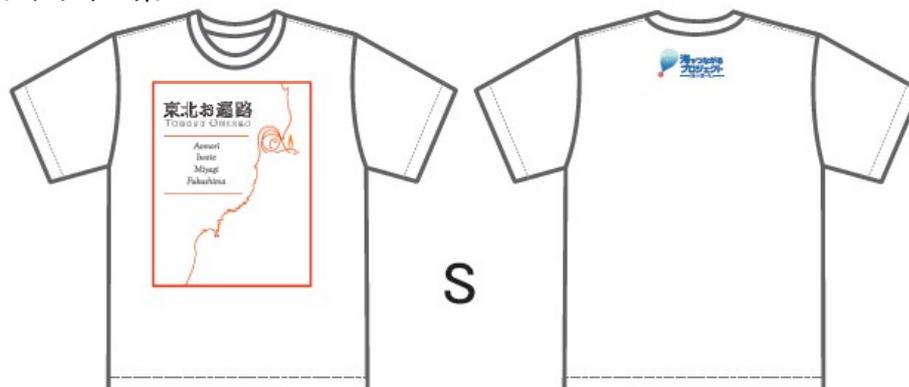
6. 巡礼者識別目印の企画と制作

- (1) 時期：2015年7月～8月
- (2) 場所：宮城大学において開発、製作は委託
- (3) 対象者：宮城大学（宮原ゼミ、日原ゼミの学生8名）、巡礼ツアー参加者8月29日（土）23名、9月25日（金）42名 計65名
- (4) 内容：
 - サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼者を識別する目印（ホタテ）のような被災地沿岸部らしい目印の企画と開発及びツアーにおいて、試作品を身に付けて頂き実証実験を行った。

▼リストバンドデザイン案



▼Tシャツデザイン案



事業目標の達成状況:

1. 事業実施のための調査・準備

【目標の達成状況】

- 第1次選定で保留及び追加調査が必要とされた巡礼地及び新たに提案された巡礼地の調査、お寺や神社など各連携先との調整作業を継続的に実施した。
- しかしながら「環境省「みちのく潮風トレイル」とも連絡調整を図ったが、マップでのお知らせ程度に留まり、本格的な連携までには至らなかった。今後も連携を模索したい。

【事業実施によって得られた成果】

- 巡礼地創生委員会において、調査内容を精査頂き、第2次巡礼地発表に繋げることができた。▼東北お遍路（こころのみち）巡礼地候補リスト



2. (仮称) 親子海遍路体験ツアー

【目標の達成状況】

- 地元観光業のたびむすびとのモデルツアーの企画開発と社会実験。海と陸との境界（辺地）の空間を辿りながら、海とともに生きてきた人々の文化を実体験し、学び、自ら考えるモデルツアーを実施するとともに紙芝居の制作と上演、（※P18 紙芝居をご確認ください）巡礼者識別目印として宮城大学でデザインしたリストバンド及びTシャツを身に付けて頂き海遍路ツアーを実施した。

【事業実施によって得られた成果】

- 協力者である山元町の震災語り部庄司アイさん、南三陸町の上ノ山八幡宮禰宜の工藤真弓さんと連携しながら、各地に点在する「語り部」の方々と連携するプログラムを盛り込み、紙芝居などによりわかりやすく、津波の教訓を伝え、防災意識の高揚を図るとともに連携を深めることができた。

【成功や失敗の要因】

- 当初、親子海遍路体験ツアーとし、1か月間周知を行ったが、参加者が集まらず、急遽8月から、対象者を拡大した。親子が集まらなかった理由として、周知期間が7月と既に旅行計画が組まれていたことや「東北お遍路」という名称が、ツアーの募集タイトルと東北お遍路という言葉に戸惑う方や、最初は宗教団体かと思った

など、宗教活動と勘違いされたことがあげられる。これは、ツアーに参加した方々からも異口同音にご指摘があり、今後の活動に生かされると考えている。

- また、帰りのバスの中で全員に感想を求めた所、概ね肯定的な意見が多かった。以下感想⇒被災地ツアーにはいろいろ参加したが、入れない場所（中浜小学校の屋上など）や実際に体験した方とお話をしたりするツアーは初めてで感動した／女性の方からお風呂は無しがよい／食事が美味しかった／説明がわかりやすかった／また、開催して欲しい／ホタテの料理体験がおもしろかった／漁業体験で地元の若い漁師さんが頑張っていることが良くわかった／紙芝居はわかりやすく伝わってくるものがあった／あんべさんの歌が楽しかった。

▼語り部の庄司アイさんに紙芝居（2作品）を贈呈



3. 各県持ち回りフォーラムの開催

【目標の達成状況】

- 福島での開催を予定していたが、諸般の事情から宮城県内での2回のフォーラムを開催した。

【事業実施によって得られた成果】

- 8月29日のあんべ光俊トークショウ&ライブ、今後の希望を持てるトークショウと全員参加型のライブとなった。
- 9月25日の2回目となる東北お遍路フォーラムは、「津波被災地をつなぐ、こころのみちしるべ」をタイトルに開催した。
- 基調講演は、本プロジェクトの巡礼地創生委員である赤坂憲雄氏（民俗学者、学習院大学教授、福島県立博物館館長）が「震災と宗教」と題したお話しいただいた。
- パネルディスカッションは、「被災地のこころにどう寄り添うか」と題し、本プロジェクト理事の穴澤鉄男をコーディネイター、協力者である青柳健二氏（写真家）や山田政博氏（大蔵山スタジオ株式会社代表取締役社長）、巡礼地創生委員であるあんべ光俊氏（シンガーソングライター）をパネリストに議論を行い、アートの切り口からの巡礼地などのアイデアが出された。
- また、東北お遍路巡礼地発表（第2次選定）、東北お遍路巡礼地マップ、インターネット情報システム（こころのみちしるべ）の公式発表を行った。

【成功や失敗の要因】

- しかしながら、女川町における巡礼地の応募については、官民とも責任の所在が明確でないことから現時点で空白地帯となっている。今回の信頼関係を踏まえ、働きかけていきたい。

4. 巡礼地創生委員会の開催

【目標の達成状況】

- 東北お遍路巡礼地創生委員会の開催し、巡礼地の調査内容について保留地と新たに応募された巡礼地を北から順に説明し、ご審議頂き、新たに選定された9か所の巡礼地を選定した。

【事業実施によって得られた成果】

- 新たに選定された巡礼地は次の通り、【青森県】大蛇小学校の二つの津波の碑（階上町）、【岩手県】ケルン・鎮魂の鐘と光（久慈市）、机浜番所群（田野畑村）、小本小学校奇跡の130段の階段（岩泉町）、震災メモリアルパーク中の浜（宮古市）、津波を見ていた3本のケヤキ・ポプラ・大スギ（大船渡市）、【宮城県】尾崎大明神（気仙沼市）、千年希望の丘（岩沼市）、【福島県】長命寺（相馬市）、Jヴィレッジ（楡葉町、広野町）については、美しいピッチがよみがえるまで、条件付き保留となった。

▼新たに選定された9か所の巡礼地（Jヴィレッジ除く）



机浜番屋群
(岩手県田野畑村)



震災メモリアルパーク中の浜
(岩手県宮古市)



小本小学校奇跡の130段の階段
(岩手県岩泉町)



津波を見ていた3本の大ケヤキ・ポプラ・大スギ
(大船渡市三陸町)



尾崎大明神
(宮城県気仙沼市)



千年希望の丘
(宮城県岩沼市)





5. 東北お遍路情報システムの開発と実証

【目標の達成状況】

- 巡礼者が巡礼地を巡りやすくする仕組みづくりを東北海遍路体験ツアーにおいて実証実験を行い、ツアーでの意見を基に修正を加え、巡礼地情報システム「こころのみちしるべ」として開発した。

【事業実施によって得られた成果】

- 具体的には、GPS機能のあるスマートフォン等で、巡礼地（第2次選定までの）こころのみちの物語を見たり、巡礼地までのナビゲーション機能、そして実際に行った巡礼地の足跡やコメントを残すことができる「こころのみちしるべ」の試験運用を始めることができた。

6. 巡礼者識別目印の企画と制作

【目標の達成状況と得られた成果】

- サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼者を識別する目印（ホタテ）のような被災地沿岸部らしい目印の企画と開発を行い、概ね好評だった。今後の制作は障がい者授産施設等との連携を模索していきたい。
- 今回、試作としてリストバンドとT シャツを制作し、東北海遍路体験ツアーにおいて、身に付けて頂いた。感想としてはグッズは高齢の方はリストバンドは×、若い方は○／キーホルダーのように鞆に下げられるタイプや冬用の服があると良／シャツの文字の色は青が良いといった意見があった。